



Red Hat build of OpenJDK 11

Eclipse Temurin 11.0.24 のリリースノート

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Eclipse Temurin 11.0.24 のリリースノートには、OpenJDK 11 の新機能の概要と、潜在的な既知の問題と考えられる回避策の一覧が記載されています。

目次

はじめに	3
RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック	4
多様性を受け入れるオープンソースの強化	5
第1章 ECLIPSE TEMURIN のサポートポリシー	6
第2章 ECLIPSE TEMURIN の機能	7
新機能および機能拡張	7

はじめに

Open Java Development Kit (OpenJDK) は、Java Platform Standard Edition (Java SE) のオープンソース実装です。Eclipse Temurin は、OpenJDK 8u、OpenJDK 11u、OpenJDK 17u、OpenJDK 21u の 4 つの LTS バージョンで利用できます。

Eclipse Temurin のバイナリーファイルは、macOS、Microsoft Windows と、Red Hat Enterprise Linux や Ubuntu を含む複数の Linux x86 オペレーティングシステムで利用できます。

RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック

エラーを報告したり、ドキュメントの改善を提案したりするには、Red Hat Jira アカウントにログインし、課題を送信してください。Red Hat Jira アカウントをお持ちでない場合は、アカウントを作成するように求められます。

手順

1. 次のリンクをクリックして [チケットを作成します](#)。
2. **Summary** に課題の簡単な説明を入力します。
3. **Description** に課題や機能拡張の詳細な説明を入力します。問題があるドキュメントのセクションへの URL も記載してください。
4. **Create** をクリックすると、課題が作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、用語の置き換えは、今後の複数のリリースにわたって段階的に実施されます。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

第1章 ECLIPSE TEMURIN のサポートポリシー

Red Hat は、一部の Eclipse Temurin のメジャーバージョンをサポートします。一貫性を保つために、これらのバージョンは、Oracle が Oracle JDK 向けに長期サポート (LTS) を指定しているバージョンと同じになります。

Eclipse Temurin のメジャーバージョンは、最初に導入された時点から少なくとも 6 年間サポートされます。詳細は、[Eclipse Temurin のライフサイクルおよびサポートポリシー](#) を参照してください。



注記

RHEL 6 のライフサイクルは 2020 年 11 月に終了します。このため、Eclipse Temurin はサポート対象の構成として RHEL 6 をサポートしません。

第2章 ECLIPSE TEMURIN の機能

Eclipse Temurin には、OpenJDK のアップストリームディストリビューションの構造の変更は含まれません。

Eclipse Temurin の最新の OpenJDK 11 リリースに含まれる変更点とセキュリティー修正の一覧は、[OpenJDK 11 .0.24 Released](#) を参照してください。

新機能および機能拡張

次のリリースノートを確認して、Eclipse Temurin 11.0.24 リリースに含まれる新機能と機能拡張を理解してください。

DTLS 1.0 はデフォルトで無効になっています

OpenJDK 9 では、Datagram Transport Layer Security (DTLS) プロトコルのバージョン 1.0 とバージョン 1.2 ([JEP-219](#))の両方のサポートが追加されました。TLS 1.1 に基づく DTLSv1.0 は、このプロトコルは弱いと見なされ、最新の標準によって安全ではないと見なされるため、使用は推奨されなくなりました。OpenJDK 11.0.24 では、DTLSv1.0 を使用しようとする、JDK はデフォルトで `SSLHandshakeException` を出力します。

DTLSv1.0 を引き続き使用する場合は、`java.security` 設定ファイルを変更するか、`java.security.properties` システムプロパティーを使用すると、`jdk.tls.disabledAlgorithms` システムプロパティーから `DTLSv1.0` を削除できます。



注記

DTLSv1.0 の使用は推奨されず、ユーザー自身のリスクになります。

[JDK-8256660 \(JDK Bug System\)](#) を参照してください。

内部 JDK バイナリーの `$ORIGIN` ランタイム検索パスでは、`RUNPATH` よりも `RPATH` が優先されます。

JDK のネイティブ実行可能ファイルとライブラリーは、埋め込みランタイム検索パス (`rpaths`) を使用して、必要な内部 JDK ネイティブライブラリーを検索します。Linux システムでは、バイナリーは `DT_RPATH` または `DT_RUNPATH` を使用してこれらの検索パスを指定できます。

- バイナリーが `DT_RPATH` を使用して検索パスを指定すると、これらのパスは `LD_LIBRARY_PATH` 環境変数で指定されたパス よりも先に 検索されます。
- バイナリーが `DT_RUNPATH` を使用して検索パスを指定すると、これらのパスは `LD_LIBRARY_PATH` で指定されたパス の後にのみ検索されます。つまり、`DT_RUNPATH` を使用すると、`LD_LIBRARY_PATH` で指定されている同じ名前のライブラリーで JDK 内部ライブラリーを上書きでき、セキュリティーの観点からは望ましくないこととなります。

以前のリリースでは、使用されるランタイム検索パスのタイプは、動的リンカーのデフォルトの検索パスに基づいていました。OpenJDK 11.0.24 では、`DT_RPATH` が使用されるようにするために、`DT_RPATH` オプション が明示的にリンカーに渡されます。

[JDK-8326891 \(JDK Bug System\)](#) を参照してください。

GlobalSign R46 および E46 ルート証明書が追加されました

OpenJDK 11.0.24 では、`cacerts` トラストストアに 2 つの GlobalSign TLS ルート証明書が含まれています。

証明書 1

- 名前: GlobalSign

- 別名: globalsignr46
- 識別名: CN=GlobalSign Root R46、O=GlobalSign nv-sa、C=BE

証明書 2

- 名前: GlobalSign
- 別名: globalsigne46
- 識別名: CN=GlobalSign Root E46、O=GlobalSign nv-sa、C=BE

[JDK-8316138 \(JDK Bug System\)](#) を参照してください。

改訂日時: 2024-08-02